

2024年（令和6年）度

特定非営利活動法人 サインポスト

第XIV期 事業報告

事業規模としては少額ながらも、NPOの事務局支援やイベントなど安定して活動が継続できている感触があります。一昨年度より定期利用が許された「タウンハウス」では個性豊かな仲間との交流を深めています。被災地である石川県能登でのボランティア活動ではNPO法人の本義に立ち返るような経験もできました。新たに正会員の入会にも恵まれ、引続き「社会的理念」の実現を支えるというミッションを忘れずに事業を展開していきたいと考えています。

◎ 事業

1. NPO・社会企業等に対する各種支援事業

■事務局支援

(1) 特定非営利活動法人J-heritage

NPO法人J-heritageは、全国の産業遺産を記録・公開し、ヘリテージツーリズムという独自の文化事業を通して、過去と未来をつなぐ旅を人々に提供している。その理念を真に社会実装するために堅実で安定した運営基盤が不可欠。そこで今年度もサインポストが事務局支援を行っている。

NPO法人としてのガバナンス強化をはじめ、会計、法務、経営相談、総会・理事会運営まで、事務局インフラの中核を担っている。近年は事業拡大に伴い税理士との連携支援も行っている。これにより、J-heritageの事業部門は現場に専念でき、より質の高いイベント企画や文化的発信を行うことが可能となった。

NPOの理念と実務の橋渡しを担う存在、それがサインポストの立ち位置だと考える。理想としては、単なるバックオフィス業務ではなく、事業戦略全体の伴走支援者として、特定非営利活動法人の課題解決に寄り添うことを願っているが、まだまだ力量不足であることも否めなく、今後の課題と感じている。

J-heritageの産業遺産をめぐる活動は、私たち日本の文化的誇りと歴史的教訓を未来に受け渡す重要な取り組みである。そして、その取り組みが社会に正しく根を張るために、これからも事務局支援という形で「社会的理念」の実現を支えるサインポストを目指していきたい。

4月26日(金) 会計税務ミーティング
(税理士を交え会計の検討会)

5月30日(木) 新事務所の引越、清掃作業

6月10日(月) 新事務所の引越、清掃作業

6月21日(金) 理事会(運営・会計報告)

6月22日(土)

定期総会 弊法人より1名出席、司会を担当。

@法人事務所(神戸市)

総会後の懇親会では「ケータリングサービス」を行うことができました。

リクエストでの献立：ルーローハン、沖縄そば(14名分)



(2) 認定NPO法人CPAO(PST基準・大阪市認証)

「能登半島地震」でのボランティア活動に関して、事務局サポートを行いました。

- ・助成金からの立替金の返済、諸謝金の送金
 - ・ボランティアスタッフの調整(個人情報の取扱い)
- (現地での具体的な活動は「7. 震災復興支援事業」として)

(3)

6月17日(月)

特定非営利活動法人ニュースタート事務局関西 定期総会 弊法人より1名出席

@へそでちゃ(大阪府高槻市)

2. 各種団体の協働交流支援事業

(1) 郷土料理の会

以前に弊法人が事務局支援をおこなっていた「ニュースタート事務局関西」のメンバーが主催する「コモンズ大学院」がカフェコモンズ(大阪府高槻市)から独立し、あらたな拠点「へそでちゃ」を同市内に設けました。以前より続けている「郷土料理の会」もこちらで継続しています。

4月24日(水)

第20回「埼玉県の郷土料理」

献立：かてめし／ゼリーフライ／武蔵野うどん

(「万物の黎明」の読書会に先立って)

会場：へそでちゃ



5月8日(水)

第21回「神奈川県郷土料理」

献立：サンマー麺／シウマイ／鎌倉井

(「万物の黎明」の読書会に先立って)

会場：へそでちゃ

6月8日(土)

第22回「高知県の郷土料理」

献立：かつおたたき／田舎寿司／どろめ汁

(日中は「6.文化・芸術の振興を図る事業」 「関奇ツ類」より『日本の仮面』展)

会場：へそでちゃ

1月30日(木)

第23回「鹿児島県の郷土料理」

関西在住の奄美出身者達による「奄美文化広め隊」と共同開催として行いました。

現地よりとりよせた「黒糖焼酎」の試飲会や民謡の演奏などもあり、盛況でした。

献立：さつまあげ／鶏飯／とんこつ

会場：タウンハウス(尼崎市大物)

食材料費は参加者(各回10名程度)よりカンパを集めるかたちで調整、負担にならないようにしています。余剰が発生した場合は「へそでちゃ」への寄付もできました。

3. ICT等を活用した地域活性化事業

今年度実施なし

4. 講師派遣および研修コーディネート事業

今年度実施なし

5. 就労支援事業

今年度実施なし

6. 文化・芸術の振興を図る事業

■関奇ツ類

近畿、関西地方を中心に寺社仏閣、地域、集落で行われている「奇祭」や特殊な伝統行事さらには不思議なモノを「まちあるき」感覚で一緒に見て考える、ツアーイベントです。一昨年度からは参加費を集めるような広く声をかける形式はとっていませんが、弊法人のメンバーを中心に参加しました。()内は同行者数。

5月3日(金)

「ギリヤーク尼ヶ崎 青空舞踊公演55周年記念公演」円山公園(京都市)(4名)



6月8日(日)

「みんなく創設50周年記念特別展

『日本の仮面—芸能と祭りの世界』

国立民族学博物館(大阪府吹田市)(4名)

12月17日(火)

「春日若宮おん祭」春日大社(奈良県奈良市)(5名)

2月6日(火)
「御燈祭」神倉神社(和歌山県新宮市)(6名)

3月5日(水)
「豊年祭」田県神社(愛知県小牧市)(2名)



■阪神大物「タウンハウス」での企画

「20世紀周辺音楽紀行～退屈、退廃、そしてLO-FI～」

日時:7月16日(火)19～21

参加者:5名

参加費:500円

ケータリング:ピザ・ライスコロッケ

世間一般の偏見と無関心にさらされているが聴き方次第でおもしろくなる20世紀の音楽を紹介していくシリーズの第二回として実施。ジャンク音楽を特集。90年代に海外でも評価された日本のバンド、ポアダムスを切り口に文字通り壊れた機械のような音をだすアーティストの音源を持ち寄り聴きあった。恒例となっているホストグループによる上質なケータリングとマニアックなジャンク音楽のミスマッチが特殊な空気感を形作る中、共通の愛好するアーティストの話で大変盛り上がった。ジャンク音楽に触れたことのない参加者からも新たなリスニングの世界が開けたとの声が聞けたことも良かった。

「20世紀周辺音楽紀行第一部気ままに歌謡日！」

日時:1月21日(火)14～18

参加:3名

参加費:無料

セクター&トースティング:エイジ☆ハヤセ(ジャンク屋)

世間一般の偏見と無関心にさらされているが聴き方次第でおもしろくなる20世紀の音楽を紹介していくシリーズの第三回として実施。第一部として一般メディアでは聴く機会の少ない歌謡曲をレコード盤でかけ続けるという試みを行った。参加者は少なめであったが歌謡曲に興味のない参加者も曲を聴くことで過去の思い出が引き出され、その思い出に別の参加者が反応し、共有していた世代間の出来事を発見し話題が広がる場面が散見され、濃密なコミュニケーションがとれた。

「第二部U焼K耽美～黄昏の英国、UKインディーズの逆襲～」

日時:1月21日(火)19～21

参加:5名

参加費:500円(場所代)

ケータリング:ピザ、バインミー、トムヤムスープ

第二部はイギリスの70年代後～90年代のインディーロックを参加者が持ちより聴き合った。イベントの性格上マニアックな参加者が多く、社会人生活の中で対面では話すことが稀な話題や、お互いに知らない曲も多数あり、盛り上がりを見せた。またホストグループによるケータリングつきであったので、エスニックな料理を美味しながらの贅沢な時間となった。

「追悼と再生 — 坂本龍一 3回忌、静謐なる集い」

日時:3月18日(火)19～21

参加:7名

参加費:500円

サインポスト 2024 年度最後のイベントは、大物タウンハウスにて行われた坂本龍一の 3 回忌追悼集会。華やかさとは無縁ではあったが、深い敬意と静かな情熱に満ちたひとときだった。

参加者はわずか 7 名ほど。いずれも坂本龍一の音楽や思想に人生を重ねてきた者たちであり、その静かな結末は、派手なイベント以上の意味を持っていた。集会は、坂本の逝去後に日本のメディアで報道されてきた軌跡を辿る映像とともに進行した。特集番組やドキュメンタリーがスクリーンに映し出されるたび、集まった者たちは言葉少なにうなずき、時に目を伏せた。

だが、そこにあったのはただの追憶ではない。むしろ、坂本の音楽が今なお生きており、私たちの中で変わらず呼吸をしていることを改めて感じさせる時間だった。環境問題への眼差し、音の隙間に潜む「余白の美学」、テクノロジーと詩情の融合それらは彼の作品の随所に脈打っていた。

会の終盤、サインポストの一人がふとした思いつきのようにピアノに向かい「戦場のメリークリスマス」の主旋律を静かに弾き始めた。その音は、まるで空間の温度を変えるかのようなようだった。誰もが息をのみ、音に耳を傾けた。楽譜はなく、演奏者の記憶と感情だけが頼り。だが、その不完全さこそが、坂本が生涯問い続けた「音楽とは何か」という問いに対する、ひとつの答えだったのかもしれない。余韻は長く、そしてあたたかかった。

芸術は長く、人生は短し - 坂本龍一はもうこの世にはいない。
しかしその音楽は、こうして今も誰かの指先に宿り、
耳の奥に鳴り響いている。



7. 震災復興支援事業

2024 年（令和 6 年）1 月 1 日に発生した「能登半島地震」の被災地にボランティアとして参加しました（弊法人から 1 名参加）。発生から半年近くたった 5 月でもほぼ手つかずの状況に、出来ることは少ないながら、避難所や仮設住宅での交流や調理補助や配食、避難所でのヒアリングを行いました。

5 月 24 日（金）1 日目

大阪府高槻市で他のボランティアと合流、支援物資の受取り、現地へ移動
富山県氷見市・久目地区で先発のグループと合流、現地の様子など情報交換

5 月 25 日（土）2 日目

買出、被災地到着
石川県珠洲市「さだまるビレッジ」で炊き出し、配食作業

5 月 26 日（日）3 日目

石川県珠洲市「三崎公民館」の調理室を借りて炊き出し、配食作業

5 月 27 日（月）4 日目

石川県珠洲市「三崎公民館」で避難者と交流食事会
輪島市視察 帰路

6 月 20 日（木）

リモートでの「報告会」
NPO 法人 CPAO の事務所から、支援者に向けて現地での活動の報告を行いました。

◎ その他 事務局関連

5 月 21 日（火）ミーティング、総会と事業報告に向けての役割分担と締切の確認（@西宮市鳴尾）

6 月 18 日（火）定期総会 2023 年度の事業報告（@阪神大物アワハウス）

12 月 11 日（水）2024 年を振り返る会（@阪神尼崎）